令和５年度第２回山口県総合教育会議　会議録

１　日　時　令和６年２月２２日（木）10:30～11:50

２　会　場　山口県庁４階　共用第１会議室

３　開　会（事務局）

４　知事挨拶

開会に当たり、一言御挨拶を申し上げる。

教育委員の皆様方には、平素から本県の教育行政の推進に御尽力をいただいており、この場をお借りして厚くお礼申し上げる。

また、本日は、大変お忙しい中、お集まりをいただき、感謝申し上げる。

私は、県政の最大の課題である人口減少を克服し、「安心で希望と活力に満ちた山口県」を実現するためには、新たな未来を切り拓いていく「人づくり」が極めて重要であると考えており、新たな時代の人づくり推進方針に基づき様々な取組を進めてきたところである。

こうした中で、先般、私は、高校生が主役となる、２つのプログラム、「やまぐち高校生ＩＣＴ活用コンテスト」、「やまぐち若者MY PROJECT／やまぐち探究サミット」に出席した。高校生たちが自分の身近にある課題を主体的に発見し、ＩＣＴの活用や様々な探究活動を通じて、その解決に前向きに取り組んでいる姿、そして山口への熱い思いを語る姿に、頼もしく思うとともに、大変感銘を受けた。

こうした取組をさらに充実し、若者たちが持てる力を十分に発揮できる環境を創り、さらに、多様な人材が連携を深め、強固な「人と人のつながり」を構築できる環境を創っていかなければならない。そして、このことが、山口県の新たな未来を創ることにつながるものと考えている。

このような考えの下、一昨日発表した来年度当初予算案では、教育におけるＤＸの推進や、誰一人取り残されることのない学びの推進などに取り組むとともに、将来の山口県で活躍する人材の育成・確保に向けて、大学、産業界等と連携し、若者の県内定着を促進する取組や、若者の育成を担う人材の確保、教育環境の整備など、新たな施策を盛り込んだところである。

本日は、来年度当初予算案のうち、「令和６年度重点取組方針」に関係する主要な事業について、また、全国的にも、本県においても大きな課題となっている「学校における働き方改革の推進」について、皆様から御意見を賜りたいと考えている。

委員の皆様には、幅広い見地から、忌憚のない御意見、御提言を賜るようお願い申し上げる。

５　**議事概要**（議事進行：知事）　　※委員発言：●　事務局説明等：○

（１）　令和６年度重点取組方針主要関連事業（案）について

（２）　学校における働き方改革の推進について

○事務局から別添資料に沿って説明。

●佐野委員

令和６年度の重点取組方針主要関連事業（案）を確認させていただき、これまで関わってきた山口県の教育行政に思いを馳せてみた。ここ４、５年だと思うが、具体的にいろいろな施策が実施されるようになってきたと感じている。以前は教育施策に関してなかなか新しい予算が付きにくく、こんな施策、予算が付けば良いと思っても、予算がないということを聞くことがあったように感じていた。現在、知事をはじめとして、多くの関係者の皆様のおかげだと思うが、ＩＣＴ、ＡＩ、ＤＸ関連が多くの施策で活用され、「やまぐちスマートスクール構想推進事業」や、健康観察アプリの活用といった『「心の健康観察」導入実証事業』、また多様なアプローチとして、子どもの居場所づくり、いじめ・不登校対策、乳幼児教育からの支援、そして業務の効率化では、支援員・指導員の配置や統合型校務支援システム間のデータ連携と、以前と比べて予算案が充実され、多彩な施策に取り組まれていると感じている。なかなか教育行政は変わらないという意見もあるが、本重点取組方針主要関連事業（案）を見ると山口県教育のアプローチは変わってきているのではないかと感じている。そしてこの変化を成果に結びつけていただきたい。今回、「山口県公立学校情報機器整備基金」の設置が予定されており、これについては大変良かったと感じている。ＩＣＴやＡＩ、ＤＸ関連が様々な施策に取り入れ始められているが、やはりこれは各学校とか子どもたちにタブレット端末等があって初めて実現する施策だと思うので、この基金が設置されるということで継続性が裏付けされるのではないかと感じている。

また、従来から取り組まれている地域連携教育も、さらに多彩な取組となって、充実した方向に進んでいるように感じている。先日、地域連携教育を進めている学校でコミュニティ・スクールを視察し、小学校・中学校で親世代、祖父母世代といった地域の人たちが、それぞれの立場で意見を出し合い、課題を熟議されている姿を見て、大家族の家族会議のような雰囲気を感じた。人と人とのコミュニケーションの図り方というのが、きっと子どもたちの良い経験になったと思われ、このような経験が、今の社会には必要ではないかと感じている。一歩先を行く「やまぐち型地域連携教育」がどのようにアドバンテージを伸ばすのか、着実な成果を打ち出せるのかを期待している。

この先、より具体的な形で誰一人取り残されることのない多様な教育ニーズに対応した取組に、継続的に取り組んでいただき、多様な個性をもつ子どもたちが活躍できるように

個別最適化を多くの子どもたちに対してどのように実現させるのかといった方向性がさらに進むことを期待している。様々な課題が出てくる変化の激しい状況であるが、これらの施策が効果あるものとして、子どもたちの心と体の成長をしっかり支え、社会につなげる山口県の教育になることを期待している。

●村岡知事

ＩＣＴやＤＸ関連についての取組は、今までなかなか進まなかったものが進んでいくようになってきたということで評価をいただいたと思うが、そのような御提案を長らくいただいたことの成果でもあると感じている。特にコロナ禍の中で、ＤＸ環境は一気に進めることができたという面もあるが、せっかくできた基盤であるので、最新の技術も使いながらうまく子どもたちの教育や力を付けることに生かしていきたいと思う。また、成果に結び付けるというところにも、こだわっていかなければならないと考える。

地域連携教育の現場も見ていただき、いろいろな世代で熟議を実施されていたということで、これは本当に山口県の素晴らしい特徴であるし、子どもたちにとって素晴らしい環境ができていると思う。コミュニケーションを取りながら多様な世代が携わることがなかなか経験できない環境が、今の日本では多いと思われる。そういった経験ができるというのは確かに教育の面でも良いと思う。取組の成果もそうであるが、コミュニケーションを取るというプロセスがとても子どもたちにとっても、地域にとっても重要なものであると感じている。今後もしっかりと充実を図れるよう、教育委員会と連携したいと思う。

●小崎委員

先ほど知事のお話にもあった「やまぐち若者MY PROJECT」に携わっておられる方と先日、お話しする機会があり、「年々高校生の力がバージョンアップしている。」と言われていた。私も、２、３年前に見させていただき、その時は多分70人ぐらいの参加だったかと思うが、その方から「今年は100人以上の参加があった。」と聞いており、「本当に高校生だけではなく、いろいろな人たちがこのような取組を知ってきているし、できているということを実感する。」と言われていた。確かにメディアではテレビで放映されていたので、私の周りでもその話をする保護者の方もいて、やはりこういう大切な取組は、いろいろな人に幅広く知っていただきたいという思いがあり、メディアの力というのは大切だなと改めて実感させていただいた。先日、萩市でも高校生が企画・運営をしたイベントが開催され、萩・明倫学舎の３号館を貸し切ってお化け屋敷をしていたが、小中高校生が総勢で約700人参加し、大盛況だったと聞いている。企画・運営は萩市に３つある高校の生徒たちが主に行い、イベントが終わった後に、取り組んでいた高校３年生に

今、自分の前に高校１年生の時の自分がいたら何て声を掛けてあげたいかと聞いたところ、その生徒から「何か思ったよりできるよ。」だと言われていた。これはすごく良い言葉だと思うし、成功体験というか、自分がやったことが多くの人に喜んでもらえた、認めてもらえたという体験をしたからこその言葉だと思った。そこでこのような機会を作ることや、子どもたちをそういう場に導いていくには、大人の力が必要だと思うので、私たちも今からの子どもたちをしっかりと支えていきたいと思った。また、「やまぐち若者MY PROJECT」に携わっておられるような若い方が、子どもたちと対等な立場で、子どもたちのことを真剣に考えている姿を見ると、やはり子どもたちも付いていくではないが、憧れると思う。だからこのような人材がもっと山口県で増えれば良いと思う。

働き方改革については、私も長年、学校運営協議会の委員をさせていただいているが、働き方改革だけではなく、学校の課題が学校運営協議会の中でなかなか見えてこない部分があるので、学校が今、何に困っているのか、働き方改革であれば、例えば委員にこういうことをしてもらいたいというのが分かれば、関わりやすくなると思う。そういうところは熟議などを通して、お互いが考えていくことだと思うので、学校側も積極的に課題を示していただきたい。また、学校側には是非こういうことをすれば、こういうようになったという、各学校で取り組まれている好事例をより多く発信していただきたい。

●村岡知事

「やまぐち若者MY PROJECT」には私も出席しており、おっしゃるとおり、年々非常に良くなっていると感じている。いつも内容的に素晴らしいなと思うが、今年は参加人数も非常に増えて、午前中のグループ発表も昨年度より多くのグループを作って行わなければいけないぐらいであった。午後からの代表発表となった高校生たちの発表はどれも素晴らしく、問題意識などもそうであるが、実際に地域と自分たちが関わって具体的に解決する方法を生み出していく、何とか解決しようと思い、協力者を得るために地域の方や団体などを訪問し、少しでも物事を前に進めるように実践していくということで、単に高校生がこうだったら良いと思い描くだけではなく、実際に行動して変えていくということがしっかりと行われていて、その熱意や行動力が本当にすごいと思う。若者の県外流出は続いているが、地域への愛着や、地域を何とかしたいという思いは高校生もかなり強く持っていると思う。私の高校時代とは全然違うような問題意識や行動力、視野の広さがあり、すごく頼もしいと思いながら見ていた。これを年々さらに充実できたら本当に高校生にとっても地域にとっても良いことにつながると思うし、そのためにも人材がとても大事だと思う。実際に良い発表をしている高校生の内容は、地域や学校などで指導されている方が子どもたちの思いを具体化するためのサポートや、ヒントを与えたりすることなどがあると聞く。

そのようにうまく導いてくれる方がいると、取組が変わるということもあると思う。教育委員会でもいろいろと考えて、指導される人材の育成に力を入れて取り組んでいると思うが、本当に指導者の影響というのは大きいと感じる。もちろん、子どもたち自身の意欲や能力も大事であるが、それをうまく方向付けし、伸ばしていく指導者が大事だと思う。

学校における働き方改革の推進については、改善のための体制整備として、学校運営協議会や地域の方がサポートできることがあればという思いを持っていただけるのはありがたいことで、そういったところを学校とうまく連携できる事例を生み出せれば、それを横展開していくことで、学校の先生にとって子どもと向き合う時間が増えたりすると思われるので、コミュニケーションをしっかり取ってできると良いと思う。

●和泉委員

令和６年度重点取組方針の主要関連事業（案）では多様な事業を精力的に展開されていると感じている。基本は子どもたちの教育の充実に資するという観点で、いろいろな施策があるわけだが、この中には教職員等の多忙化解消のためにも重要なものがあると思う。支援員の配置については、今年度新しく保育士の独自加配や、県立学校にも教員業務支援員が配置をされるということで、マンパワーでも充実に取り組んでいただいており、統合型校務支援システムや、ＩＣＴでも多忙化の解消につながるような取組もあり、是非、実りある成果を上げていただきたいと思う。教員の時間外勤務を示したグラフを拝見すると、この数年はなかなか数値が改善されていない。原因等も含め、いろいろな施策を現場がどう受け止められ、感じているのかということも十分に分析し、ＰＤＣＡサイクルを働かせて、より効率の良い対策を目指していただければと思う。

それと最近、社会一般で賃金の引き上げ等が話題になっており、今後、教職員の給与も上がっていくと思うが、その際に施策の予算が減らないようにお願いする。少子化、人口減少というのが学校現場も含めて非常に大きな課題になっており、出生率が上がらない、他県から人が来ないということであれば、人口がずっと減り続けることとなる。ニューヨーク・タイムズ紙が発表した「2024年に行くべき52カ所」で、世界各地の旅行先の中で山口市が３番目に選ばれたということで、他県から見て魅力のある山口県というものを発信していかなければいけないと思う。他県からの人口流入としては、やはり高校卒業者や大学卒業者、そして大学入試が非常に関わってくると思われる。山口大学は、残念ながら隔年現象で倍率が去年より落ちているので、志願者が増えるように山口県の魅力発信に努めていきたい。そういう意味では、山口県全体で大学等とも連携して魅力発信に一体となって力を入れていただけたらと思っている。

学校と地域との連携に関してはコミュニティ・スクールを中心に各地域で行われている

が、その中で改修した新しい校舎に地域の方が来られるような部屋があり、その様子を拝見し、素晴らしいと感じた。それをさらに進めて、公民館なども学校の中に作ったら良いのではと思う。地域と学校が連携ではなく、一体になるようなことがもっとあっても良いのではと思う。子どもたちが自己有用感を持ち、地域に関わっていく先として地域に働く場がないと、結局その子どもたちも、これから先の地域に自分たちは責任持てないということを聞いたこともあるので、地域が活性化するように、学校だけではなかなか難しい面もあると思うが、そのあたりも知事のリーダーシップで引っ張っていただければと思っている。

●村岡知事

学校の先生方の業務量がなかなか減らないということで、支援員の配置や、統合型校務支援システムなどを導入し、大きく改善が図られる方向に向かっていけば良いと思う。これはいろいろと今から考えなければいけないところでもあるが、おっしゃるとおり常に何か予算を措置してそれで進めて終わりというのではなく、ＰＤＣＡサイクルで回していきながら改善していくことが重要である。そして先生方の負担を減らしていかなければならない。教員採用試験の倍率も下がっており、難しい状況にあるということなので、やはりそういったところは改善していかないといけない。しっかりと教員を目指してやっていこうという方たちも増えてもらわなければいけない。そういった意味でもとても重要だと思う。民間の方でも賃上げを要求されているので、いずれ官民の格差是正ということで、公務員もまた賃上げされていくことになると思う。一方で人件費の支出が増加したとしても、施策に係る予算の方もしっかりといろいろな形で確保できるようにしていきたい。

大学入試では山口大学の倍率が下がったということであるが、県内に進学してもらいたいということで、山口大学を中心に「大学リーグやまぐち」等でも高校から大学としっかりと県内進学、そして県内就職してもらおうと取り組んでいるので、さらに連携していきたいと思う。就職で言うと、若者の県外流出が続いており、一方で転入と転出の差し引きの社会増減では、もちろん転出超過が一貫して続いているが、この４年ぐらいは縮まってきていた。移住者数なども５年間で倍に増えるなど、流れとしては、地元志向が強まっているということがあるのかなと思っていたが、コロナ禍が明けてから山口県もそうだが、全国的に再び転出超過の傾向となっている。人の奪い合いというのがすごく増えてきており、そういった中で勤務条件であるとか、いろいろな点で魅力を感じて首都圏に行く若者が増えている。いろいろと大変な中ではあるが、県内の企業も頑張ってもらい、賃上げ等もしていただきたく、新年度予算で人口減少対策として、山口県に帰ってくることに対する支援としては特に若者の給料を上げる、初任給を上げるなどに取り組む企業に対しての

補助の創設や、奨学金の返還を企業が支援する場合の補助など賃金面や福利厚生面で企業の取組を後押しすることとしている。そうしたことも行いながら、またいろいろな魅力も広く紹介しながら人口減少に対して大きく反転攻勢ができたら良いと思っている。

●木阪委員

来年度の重点取組方針主要関連事業（案）から山口県の非常に強い決意を感じている。まずウェルビーイングの関係として、以前からウェルビーイングには興味があったが、新たに事業化されており、これは具体的にどのように進めるのか個人的には興味がある。ただ世間一般という言い方をしたら語弊があるかもしれないが、ウェルビーイングはまだまだ浸透してない中で、ウェルビーイングという言葉を広げるような形での取組がもっとあっても良いのではと思う。振り返ってみれば、これはウェルビーイングの講演会だったし、ウェルビーイングというのはこういうものだというのが、浸透するようになれば良いと思う。

生成ＡＩを活用した事業もあるが、これはもう避けては通れない道である。私も地元の教育委員会にお願いして１学期に１、２回ほど授業参観をしているが、その中で特にＩＣＴなどを活用した授業を目の当たりにしていく中で、世間一般とか保護者の方に、そこまでそんなことをやっているということがまだ伝わっていないと思った。学校の中では盛り上がっているかもしれないが、地域を巻き込んで進めていくということを意識して、保護者や地域の方々にも刺激を与えてもっとうまく回っていくようになれば良いとも感じている。

次に学校における働き方改革の推進についてであるが、昨日、私が住んでいる自治体の男女共同参画会議に出席した際、県で男性職員の育休を積極的に取りましょうとか、共育てとかの話題が出た中で、男性教員の育休の話があり、昨年の育休取得は０ではなかったが、やはり大変少ない人数であったと聞いた。皆さん思っていても言わないのかもしれないが、教員について、そこにはまだ触れないで欲しいみたいなものがあるのではないかと感じる。男性教員が生徒たちの前で「ちょっと悪いけど、２週間ほど育休でいないから、あと頼むね。」というようなことが自由に言える、そういった時代が早く実現できれば良いと思う。そのためには教員の数も必要であるし、働き方についても、もっと自由に、周りに必要以上に気を遣わない風土になれば良いと感じている。

最後になるが、乳幼児期における読書習慣のことや、こども食堂などの居場所づくりのことなど、既に取り組まれているものもあると思うが、例えば読書であれば蔵書の量ではなくて、いろいろな本を読むという習慣を根付かせるように意識していくのも良いと思う。

●村岡知事

ウェルビーイングについて、今回は主体が子どもたちだが、一般の県民の方々向けにも、取り組んでいこうと思っている。普及・啓発の観点や、企業経営に活かせることもあると思うので、いろいろな形でウェルビーイングというワードをしっかり出していき、浸透させていきたいと思う。

それから生成ＡＩは私も大変興味を持っている。子どもたちに分からないことを教えるのに、答えを教えるのではなく、ヒントを出しながら、子どもたちに考えさせていくことを大事にするといったことができる技術があるということなので、良い形で使えるように展開ができたら良いと思う。そして様々な取組を地域の方にも分かっていただくというのはとても大事だと思う。私も子育てをして、子どもが学校に行っているが、自分たちが子どもの時よりも随分と先生が手厚く対応してくれていることをありがたいと思っている。何か学校で起きたことに対して、一人ひとりにすごく丁寧にフォローしてくれる。それは保護者が求めていく中で、段々とそうなっていった面もあり、その分、教員も大変だというのは非常に強く感じている。やはり教育の中身や先生の大変さとか、そういったものは自分が関わってくると分かってくるところがあるが、少し引いていると分からないところがあると思う。地域の方にいろいろな教育などに関わっていただくために、知ってもらうというところをいかに工夫してできるのかということを考えていくことは重要と思う。

男性育休の関係については特に問題意識を持ち、まず県として連続２週間以上の育休取得を必ず 100％にする。それから子どもが生まれてから最初の１年間が特に大変なので、１年のうちにトータルで育児関連休暇を１か月以上取得する。この２つを100%にするということを令和７年度までに達成しましょうということを掲げ、各市町の方にも是非やりましょうということで、全ての市町とワンボイスの宣言を行った。この背景は、やはり男性の育児・家事への参加が増えると第２子以降の出生数が増えるということがあり、それは女性の負担が緩和されて、子育てが楽しいなという雰囲気が生まれてくるからだと思う。そういった中で、山口県は男性の育児時間が全国46位のワースト２位という、非常に低い状況にある。一方、女性の家事・育児時間というのは全国トップクラスで、このギャップの差がワースト２位となっている。この点を山口県として大きく改善していかなければいけないところであるので、まず行政が率先し、民間の方にも進めていただきたいということで、育休を進めていく企業に対して最大180万円の補助を創設し、取り組んでいくこととしている。教員の方は、なかなか難しさや、言いづらさとかが確かにあると思う。そこはいろいろなサポート体制や、周囲の理解も必要ではと思う。やはり男性育休は社会としては大事だという意識をさらに作っていき、保護者の方々にも理解してもらうという、そういう機運や環境を整えていくことも必要ではないかと感じる。いずれにしても、特に少子

化もコロナ禍で加速しているので、大きく転換し、そういった方向に向かっていかなければいけないと思う。

●藤田委員

少子化で学級数が減り、学校の空き教室については先ほど和泉委員もおっしゃったように、公民館と一緒になったら良いのではと思う。空き教室にカルチャースクールなどを入れたりすると、地域の方が学校に来られるので賑わいにもつながるのではないかと考える。ただ誰もが学校に入れるようにすると、犯罪やセキュリティなど子どもの安全面を考慮する必要があるが、そこについては学校運営協議会や地域の自治会などで対応を考えると良いのではと思う。例えば、仕事をリタイアされた方たちの人材バンクみたいなものをつくり、身元がはっきりした方を、朝の交通立哨や学校のプールの時間の見守り、放課後の見守りなどに活用する。学校が一斉登校、一斉下校であると、学校の運動場で遊ぶこともできないので、学校の先生ではない大人が付いて見守るような制度ができたら良いと感じている。これにより先生方の負担も減り、授業の準備に集中できる環境が整うのではないかと思う。それと学校の先生や養護教諭のように専門家と認められた資格だけではなく、半年程度の研修を受けて、子どもたちのお世話ができるような資格や制度を作ると良いと思う。既に県内でも子どもたちのための環境づくりに取り組んでいる団体等もあるが、そのような活動をさらに県内全域で浸透させていくことができれば、学校以外のところでも大人の目がある、子どもたちが安心して学べる環境づくりができるのではないかと思う。山口県は広島県や福岡県といった大都市圏に挟まれているので、山口県の特色をどこで生かすかと言えば、やはり教育なのではないかと思う。吉田松陰を輩出した明治維新をはじめ、様々な歴史の舞台になった山口県を教育に生かさない手はないと思う。

あと少子化については、これ以上なかなか歯止めを効かすのは本当に難しいと思うが、小中一貫であるとか、中高一貫の学校が増えていると感じているので、小中高大の一貫校を作り、県内の大学に進んでもらえるような環境を作るのも面白いのではないかと思う。

●村岡知事

空き教室は増えているので、地域のためにもうまく使っていかなければならない。学校視察を行った際、地域の子育て世代の方が乳幼児を連れて集まり、そこに子どもたちが遊びに来て交流するなどしていた。学校とルールづくりをして取り組むと良い形で実施ができるし、子どもたちの教育にとってもそこに関わっていく取組ができるのではと思う。子育て世代の方が集まって情報交換をする場に乳幼児の子がいて、不登校の子はその場だけには来て、そこからまた通常のクラスに戻るなどにもつなげられて、ステップの場など、

いろいろな居場所があるということは良いことと思う。管理する上では様々な問題があるので、全てには対応はできないと思われ、おっしゃるとおり、防犯の面では学校にセキュリティが求められるというのもあるので、工夫しながらやっていかなければいけないが、そのような取組は地域と学校にとっては大事なことだと思う。それから人材バンクについては、うまく加入してもらえるような仕組みが必要なのではと思う。例えば、県でも様々な取組にボランティアとして登録してもらう制度を設け、「ここで、こんな活動があるので、行ってみませんか。」という形で、登録された方に案内をしており、その輪をもっと広げていかなければいけないと思っている。思いを持っている方や、できる力を持っている方はたくさんいるし、特に元気な高齢者の方も多くいらっしゃるので、そういった方に学校や地域の様々な活動にも力を貸してもらえるとありがたいと思う。その取組の充実も考えていかないといけないと思う。居場所づくりや学びの場づくりについては、例えば子ども食堂などは県で立ち上げの支援制度等を設けて、コロナ禍の間、全国トップの増加率で増えていった。そのようなことをやりたいとか、支援があればやりたいという方は結構おられるので、そうした環境をさらに整えていきたいと思う。意欲的に活動されているロールモデルの方も県内にはいらっしゃるので、そのようなモデルを参考に自分も同じようにやってみようという方が増えるとうれしく思う。また、山口県教育の特徴や素晴らしい面をさらにＰＲしていければと思う。

次に、小中一貫や中高一貫等については、これから教育委員会の方でもさらに検討されていかれると思う。大学においても地域枠のような形で地域人材の確保も増えてきてはいるが、一方で競争性を確保しなければならないなど、難しい話が出てくる。このバランスをうまく取りながら進めていく必要があると感じる。一貫教育についてはメリットもあると思うし、特に中高一貫や高大一貫は地域にしっかりと留まって、県外に進学を検討する段階で、県外流出を防ぐには非常に意味があると思う。それについては、今後、取組を進めていきながら、どのような形でさらに拡充するのかということを考えていかなければならないと思う。

●繁吉教育長

県教育委員会では昨年10月に県教育の新たな指針となる、山口県教育振興基本計画を策定したところである。来年度は、この新たな計画に基づいた施策を本格始動することとしており、来年度予算は新規14事業、拡充４事業の計18事業をはじめ、多くの予算をつけていただいている。その新規事業の中から今日は２事業について話をさせていただければと思う。

まず本県の最重要課題である人口減少の克服に向けた取組であるが、県教委では高校生

の主体的な県内就職・県内定着を促進していきたいと考えており、新たな計画においても高校生の県内就職割合90％という高い目標を掲げて、就職支援の基本であるガイダンスの充実やマッチングの促進に重点的に取り組んでいきたいと考えている。とりわけ来年度は、高校入学後の早い段階から生徒に寄り添った伴走型支援を行うために、特に県内就職割合が低い地域を中心に、就職時の支援体制を強化していくとともに、ＤＸや働き方改革など各産業分野で先進的な取組を行っている県内企業と連携した、企業見学や実習を推進していきたいと考えている。

次に子どもたちの学力向上の取組である。急速に発展している生成ＡＩが社会の様々な分野で活用される中、県教委としても生成ＡＩの活用を進めていくということで、子どもたち一人ひとりに応じた学習支援をさらに充実していきたいと考えている。このため新たに、生徒に問題の解き方や考え方を導いていく生成ＡＩ・学習アシスタントアプリ、これを県内モデル校として中学校７校に導入し､子どもたちの主体的に学習に取り組む態度や、思考力・判断力・表現力の育成に努めていく実証をし、それを県内の全校につなげていきたいと考えている。その他にも高い志を持つ高校生に対して、最先端の研究動向を踏まえた講義やハイレベルな課外授業を引き続き提供していきたいと考えている。また、新たにアメリカのスタンフォード大学と連携したオンラインプログラムなども実施し、子どもたちの学ぶ意欲をしっかりと育んでいきたいと考えている。

●村岡知事

高校生の県内就職については教育委員会の方で是非頑張っていただきたいと伝えたところ、目標を 90％と高く掲げてもらい本当にうれしく思う。それを実現するための、いろいろな取組もスタートされるということで、是非成果に結びつくことを期待している。早い段階からしっかりと高校生を伴走型で支援し、ガイダンスを充実させるなどの体制の整備も行われるとのことで、是非高い目標であるが、特に人手不足が深刻な状況であるし、実現に向けて取り組んでいただきたいと思う。このまま人口の社会減が進んでいくと、さらに人口減少が加速するので、地域で活力を保っていくためには、県内に若者が定着することが重要であるので、大変心強く思う。

学力の向上は子どもたちにとっても非常に良い取組ではないかと思う。取組を進めていけば課題は出てくるかもしれないが、そのような課題をうまくコントロールしながら展開していくと、学びのサポートにしっかりとつながるのではないかと思う。スタンフォード大学との連携についても調整して進めてもらい、先方も意欲的に取り組もうということを聞いており、非常に良かったのではないかと思う。

県内定着の早い段階からの伴走型支援の方も、メディアでも取り上げられていたと思う

が、そのような取組も知ってもらい、いろいろなサポートも受けながら、是非成果につながるよう期待している。そのために、私もしっかりとバックアップするので、よろしくお願いする。

●小崎委員

先程、繋吉教育長も山口県教育振興基本計画について話をされていたが、その内容を子どもたちに是非知ってほしい。今、山口県がどういう子どもたちに育ってほしいのかということを、やはり主役の子どもが知らないとダメなのではないかということで、以前、子ども用に分かりやすく周知できるものを作っていただきたいとお願いしたところ、この度「児童用」と「生徒用」の２種類のリーフレットを作っていただいた。これは県の教育振興基本計画が分かりやすい内容になっており、イラストも業者にお願いするのではなく、高校生が描いたものを使用し、身近で親しみやすいリーフレットとなっている。先日、萩市のある学校に「これ届いていますか。」と聞いたら「届いたので生徒に配りました。」と聞いたが、ただ配っただけになっている。これを使って、学校のみんなで話をしてみようとか、この内容を一緒に読んでみようとかにはまだなっていない。多分、時間がなかなか取れないのだろうが、本当にもったいないと思う。あともう一押し、知事がこれを持って、こういうのができましたとメディアに向けて言っていただければ、きっと子どもたちも「あ、これか。ちょっと見てみようか。」となるのではないか。また、子どもだけではなく、保護者にも是非見ていただきたいので、保護者の方たちにもアピールできるのではないかと思う。繋吉教育長にも一緒にしていただけると、とても良いのではないかと思う。

●村岡知事

せっかく良いものができたのだから活用していくことは大事である。

●繋吉教育長

リーフレットには子どもたちが「未来を拓く　たくましい『やまぐちっ子』」になるために、自分自身が学校や家庭、地域でできることを書く欄もあるので、そちらが活用できるのではないかと考えている。

●藤田委員

私自身が出席して面白かったと思った「100人カイギ」について紹介させてもらう。大人の方は参加費が必要だが、学生などは無料となっている。これは東京都から始まり、各回、開催地域で面白い活動をしている５名のゲストの話を聞いて、ゲストが100名に達したら

解散するというものである。ホームページがあるので御覧いただくと詳しく分かるが、今は下関市と岩国市で開催されており、山口市と宇部市は既に終了している。私も下関市の「100人カイギ」に参加して、いろいろな人の話を聞いて面白かった。是非これを子どもたちに広めていただきたい。学生は無料であり、YouTubeでも配信されているので良いと思う。県内で働いている様々な大人の方が参加しており、行政の方も参加されている。大人の方は終了後に懇親会などでお互いにつながりができる。さらに高校生たちを面白いからと連れて見に行く方もおられる。このように、身近な大人の話が聞ける機会があるというのを最近知ったので、これは是非活用していただけたらと思う。

●村岡知事

コミュニティ・スクールなどで地域の大人が子どもたちに向けて話をすることについては、高校などで特に行っていると聞いているが、「100人カイギ」については地域を限定しているところが良いと思う。下関市なら下関市で思いを持って活動している方にこんな方がおられるということを子どもたちが知れば、地域に愛着を持つことにつながるかもしれない。

●佐野委員

スタンフォード大学との連携についてである。これまで随分長い間、英語教育には取り組んでいるが、私たちが学生の頃は英検を持っている人なんてそんなにいなかったと思う。しかし、今は高校生で英検の取得が増えているはずであるが、実際に現場で英語を使う機会は少ないのではないかと思う。そこでこのような取組や、インバウンドで日本に来られた外国の方との交流を通じて、身についた英語を活用できれば、自分の中のスイッチが入るなどして面白いと思う。そのような機会があれば、高校生にとって、新たな未来につながるかもしれないと思う。

●村岡知事

スタンフォード大学の取組は、どのようなプログラムにするのかを調整中であると聞いている。日本の高校生を対象に、スタンフォード大学がかなり力を入れてプログラムを提供しており、いくつかの自治体でそれを開始している。山口県は県用にカスタマイズするので、どういった形で実施するのかというのはこれから調整をして、できるだけ良い形で行ってもらいたい。子どもたちが英語を学ぶことや、大学に進学することに対して、高いモチベーションを持てるような形で展開してほしいと思っている。そして英語を身に付けて発揮する場があれば良いと思うが、実際使われている会話であったり、聞き取りであっ

たりという実用に近い英語が、入試などでも求められているのではと感じる。そういう意味でも英語が使える場が増えたら良いと思うし、高校生に対してはグローカルな人材の育成に向けた取組など行っているが、他にも様々な場で取り組めると良いと思う。

（３）その他

●村岡知事

本日は、「令和６年度重点取組方針」に係る主要関連事業（案）と「学校における働き方改革の推進」について、皆様から、貴重な御意見、御提言を賜り、感謝申し上げる。

本日、皆様からいただいた御意見、御提言を踏まえて、来年度の重点取組方針に基づく、取組を進めるとともに、今後の施策の構築についても、さらに検討を進めていけたらと考えている。

また、働き方改革については、全庁を挙げ、「やまぐちワークスタイルシフト」として、ＤＸ等を活用しながら業務の効率化を図り、県民にとって必要なサービスを充実させていくことに人と時間を集中させる働き方を推進しているところであり、学校においても事務的なところから子どもと向き合う時間を増やしていくことにつなげていくことが重要だと考えている。引き続き、知事部局と教育委員会が十分な情報共有を図りながら、取組を進めていきたいと考えている。

皆様におかれても、引き続き、教育委員としてのお立場から、御支援、御協力を賜ることをお願い申し上げ、まとめの挨拶とさせていただく。

６　閉会（事務局）

（以上）

※ 上記については、事務局がまとめたものです。